

屋外アクティビティ

「知床」という名前は、日本の北方領土の先住民であるアイヌ民族の言葉で「地の果て」という意味があります。知床半島には山が多く、深い森林に覆われていて、海岸には巨大な岩や断崖絶壁が連なっています。

アイヌ民族がこの地を「知床」と名付けたのは、この壮大な景色から来ているのでしょう。羅臼町では、ハイキングやガイド付きツアーを通じて、知床の起伏にとんだ地形を探索することができます。

知床半島を探索

羅臼では、岩場の多い海岸線を周遊するツアーボートや、シーズン中は根室海峡の深海へと向かうホエールウォッチング船に乗ることができます。ここでは、4月～10月クジラやイルカが生息しています。また、森の中を歩くハイキングコースや、火山の山頂に向かうトレッキングコースもあります。経験豊富なダイバーであれば、流氷下を潜り、冬の海の探索もできます。

アイヌ民族の神々の里

知床半島は、アイヌ神話に登場する三神（カムイ） — ヒグマ、シマフクロウ、シャチ — の生息地です。これらの動物は、アイヌ民族にとって食料を供給し地域を守る存在であり、アイヌの暮らしを支える上で果たすその重要な役割から神聖視されています。これらの動物は、観察ツアーで見ることができます。